



平成 29 年度
URひと・まち・くらしシンポジウム (UR技術・研究報告会)
東京大手町の日経ホールで開催

「まちの魅力の引き出ししかた ―団地が仕掛けるまちの魅力アップ―」を全体テーマとしたシンポジウムを、10月11日(水)に日経ホールにて以下のプログラムで開催いたします。

(1) 特別プログラム (13:10~14:40)

「団地とひとから考えるまちへの仕掛け」

東京大学大学院工学系研究科建築学専攻教授の松村秀一氏をモデレーターにお招きし、日本のリノベーションの第一人者と言われる株式会社ブルースタジオの大島芳彦氏と、賑わい形成・コミュニティ形成等でご活躍されている株式会社 studio-L の出野紀子氏にお話し頂きます。

(2) URによる調査研究、取組み等の報告 (14:55~17:25)

「『鳥の目』と『猫の目』によるまちへのアプローチ―密集市街地の防災と住環境整備―」
他、全7課題についてUR職員よりご報告いたします。

(3) パネルディスカッション (17:45~18:45)

「これまでと今、これからの団地」

東京R不動産の千葉敬介氏をコーディネーターにお招きして、多様な分野のパネリストに団地の魅力についてお話し頂きます。

また、ホワイエでは、UR都市機構が行ってきた企業や大学とのコラボレーションに関する企画展を行います。

これらは、国土交通省の住生活月間(10月)の取組みの一環として開催するものです。

なお、大阪でも、10月18日(水)に阪急うめだホールにてシンポジウムを開催いたします。(詳細は、「【参考】大阪会場の開催概要」を参照)

取材をご希望の方は、下記の本社広報室報道担当までご連絡ください。

お問い合わせは下記へお願いします。

本社 技術・コスト管理部 技術調査課
(電話) 045-650-0659

本社 広報室 報道担当
(電話) 045-650-0887

平成 29 年度 UR ひと・まち・くらしシンポジウム〔東京会場〕 開催概要

1 全体テーマ

「まちの魅力の引き出しかた ―団地が仕掛けるまちの魅力アップ―」

既存のものを活かして新たな価値を生み出していく時代である今、それぞれが持つ“資源”を発見し、魅力を引き出す仕掛けが、まちづくりに求められていると考えています。どのように資源を見つけ、どのように魅力として仕立てるのか、まちや団地の魅力とは何なのか。特別プログラム及びパネルディスカッションを通し、“まちの魅力の引き出しかた”について考えます。また、UR都市機構が取組んでいる、事業報告等を行います。

2 日時

平成 29 年 10 月 11 日（水） 13：00～18：55 （開場 12：30）

3 会場

日経ホール（定員 610 名） 東京都千代田区大手町 1-3-7（日経ビル）

4 内容

（1）特別プログラム（13:10～14:40）

「団地とひとから考える、まちへの仕掛け」

モデレーター：東京大学大学院工学系研究科建築学専攻 教授 松村 秀一 氏

パネリスト：株式会社ブルースタジオ 専務取締役 大島 芳彦 氏

パネリスト：株式会社 studio-L/

東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科 講師 出野 紀子 氏

（概要）

ハードとソフトの両面からのアプローチに視点を置き、様々な方法で今ある資源を魅力へ変える“仕掛け”をされている先生方に、「団地とひとから考える、まちへの仕掛け」というテーマで、各地域での事例をご紹介頂きながら、魅力的な資源を見つけ活かす、その仕掛けについてディスカッション形式でお話し頂きます。

（2）調査研究、取組み等の報告 全 7 課題（14:55～17:25）

①「鳥の目」と「猫の目」によるまちへのアプローチ

―密集市街地の防災と住環境整備―

② 新しい時代の再開発をどう進めるか

―これからの地方都市のまちづくり―

③ ソフト・ハード連携による子育て世帯を中心とした地域コミュニティ活性化の取組み

―「子育て頼り合い」を目指した港北ニュータウン メゾンふじのき台―

- ④ 暮らすにいい街、歩くに楽しい街への仕掛けづくり
—浜甲子園団地における団地再生の取組み—
- ⑤ UR賃貸住宅建築物の健全性調査に関する取組み
—50年経過時調査—
- ⑥ 35年間にわたる雨水浸透工法の効果検証
—健全な水循環をめざして—
- ⑦ 居住者さんへ聞いた、魅力的な住まい方
—MUJI×UR 住まい方調査—

(3) パネルディスカッション (17:45~18:45)

「これまでと今、これからの団地」

コーディネーター：東京R不動産/『団地のはなし』編集者 千葉 敬介 氏

パネリスト：作家/ジャーナリスト/『団地のはなし』執筆者 佐々木 俊尚 氏

パネリスト：ローカルライフマガジン『雛形』編集長/

『暮らしと。』『団地のはなし』編集者 森 若奈 氏

パネリスト：美術家/北澤潤八雲事務所代表/

「サンセルフホテル」などを企画 北澤 潤 氏

パネリスト：UR職員

(概要)

これからの団地とは？これからの暮らしとは？—

時代の要請に対応し役割を変化させてきた団地。団地や暮らしに関する活動をされている多様な分野の方々の幅広い視点から、暮らし方の変化による団地の新たな魅力や、今後の団地の可能性についてお話し頂きます。

(4) 企画展

①概要

「コラボレーションで団地の魅力UP—企業、大学との連携—」

UR都市機構が行ってきた企業や大学とのコラボレーションの事例をパネル展示にてご紹介いたします。

②展示場所 日経ホール ホワイエ (4階)

5 入場料・テキスト料

無料 ※シンポジウム用テキストは、当日会場で配布いたします。

6 ホームページ

(アドレス) <http://www.ur-net.go.jp/rd/houkokukai/>

ホームページより事前に参加申込みを受け付けております。

7 Facebook ページ

(アドレス) <https://www.facebook.com/urhoukokukai/>

8 CPD 認定

本シンポジウムは都市計画CPD認定を受けております。

※CPD単位は、都市計画学会以外の団体でも認定される場合があります。認定可能団体につきましては、本シンポジウムのホームページでご案内しております。また、具体的な申請方法等につきましては建設系CPD協議会のホームページまたは所属されている団体のホームページ等でご確認ください。

9 シンポジウムにご来場の学生の皆さんへ書籍「団地のはなし」をプレゼント

(1) 概要

シンポジウムのFacebook ページを「シェア」した方で、シンポジウムに来場しアンケートをご提出いただいた学生の方に、URが企画・監修を行った書籍「団地のはなし」をプレゼントいたします。

(2) 対象者

当日シンポジウムにご来場の大学生・大学院生

(3) 方法

- ①シンポジウム開催日前日までに、シンポジウムのFacebook ページを「シェア」し、「シェア」画面を印刷または画像保存
- ②シンポジウムに来場し、受付時に配布される来場者アンケートに記入
- ③シンポジウム終了時に、受付へFacebookの「シェア」画面の提示と、来場者アンケートの提出を行った方に書籍をプレゼント

以上

(別紙)



UR Symposium for People, City, and Life
 平成 29 年度
 UR ひと・まち・くらし
 シンポジウム
 UR 技術・研究報告会

まちの魅力の引き出ししかた

- 団地が仕掛けるまちの魅力アップ -

〈特別プログラム〉

13:10 - 14:40



モデレーター
松村 秀一氏
 (まつむら しゅういち)
 東京大学大学院
 工学系研究科建築学専攻 教授



パネリスト
大島 芳彦氏
 (おおしま よしひこ)
 株式会社 ブルースタジオ
 専務取締役



パネリスト
出野 紀子氏
 (でののりこ)
 株式会社 studio-L
 東北芸術工科大学
 コミュニティデザイン学科講師

「**団地とひとから考える
 まちへの仕掛け**」

〈パネルディスカッション〉

17:45 - 18:45

「**これまでと今、
 これからの団地**」



コーディネーター
千葉 敬介氏 (ちば けいすけ)
 東京 R 不動産 / 『団地のはなし』編集

- パネリスト
- 佐々木 俊尚氏** (ささき としなお)
作家 / ジャーナリスト / 『団地のはなし』執筆者
 - 森 若奈氏** (もり わかな)
ローカルライフマガジン『離形』編集長 / 『暮らしと。』『団地のはなし』編集者
 - 北澤 潤氏** (きたざわ じゅん)
美術家 / 北澤潤八雲事務所代表 / 「サンセルフホテル」などを企画

〈企画展〉

「**コラボレーションで団地の魅力 UP
 - 企業、大学との連携 -**」

定員 610 名・入場無料

2017.10.11 (水) 13:00 - 18:55 (開場 12:30)

〈東京会場〉 日経ホール → 東京都千代田区大手町 1-3-7
 アクセス / 地下鉄「大手町駅」下車 C2b → 出口直結

〈申し込み方法〉 下記 URL、または QR コードからアクセスしてお申し込みください
 参加申し込み〆切 10月4日(水) ※〆切後は当日会場にて受付
www.ur-net.go.jp/rd/houkokukai/



主催：独立行政法人都市再生機構
 共催：一般財団法人都市再生共済会
 お問い合わせ先：独立行政法人都市再生機構 本社 技術・コスト管理部 技術調査課
 TEL：045-650-0659 / MAIL：rd-houkokukai@ur-net.go.jp

【参考】大阪会場の開催概要

1 全体テーマ

「まちの魅力の引き出しがた —団地が仕掛けるまちの魅力アップ—」

既存のものを活かして新たな価値を生み出していく時代である今、それぞれが持つ“資源”を発見し、魅力を引き出す仕掛けが、まちづくりに求められていると考えています。どのように資源を見つけ、どのように魅力として仕立てるのか、まちや団地の魅力とは何なのか。特別講演及びパネルディスカッションを通し、“まちの魅力の引き出しがた”について考えます。また、UR都市機構が取組んでいる、事業報告等を行います。

2 日時

平成29年10月18日（水） 13:00～18:20 （開場 12:30）

3 会場

阪急うめだホール（定員 408 名）

大阪府大阪市北区角田町 8-7 阪急百貨店うめだ本店 9 階

4 内容

（1）特別講演（13:10～14:10）

「ランドスケープから捉えた地歴を踏まえた魅力ある風景づくり

—大阪、堺を事例に—

講演者：公立大学法人大阪府立大学 名誉教授 農学博士 増田 昇 氏

（概要）

自然と人間との関係から生み出されるランドスケープの基本的認識に立脚し、大阪や堺の個性ある風景がどのような歴史と自然環境との係わり合いによって形成されてきたのか、ご講演頂きます。

（2）調査研究、取組み等の報告 全7課題（14:10～16:50）

①「鳥の目」と「猫の目」によるまちへのアプローチ

—密集市街地の防災と住環境整備—

② 新しい時代の再開発をどう進めるか

—これからの地方都市のまちづくり—

③ ソフト・ハード連携による子育て世帯を中心とした地域コミュニティ活性化の取組み

—「子育て頼り合い」を目指した港北ニュータウン メゾンふじのき台—

④ 暮らすにいい街、歩くに楽しい街への仕掛けづくり

—浜甲子園団地における団地再生の取組み—

- ⑤ UR賃貸住宅建築物の健全性調査に関する取り組み
—50年経過時調査—
- ⑥ 35年間にわたる雨水浸透工法の効果検証
—健全な水循環をめざして—
- ⑦ ここでしか味わえない暮らしかた
—MUJI×UR 居住者さんに聞く。暮らしてから、その後—

(3) パネルディスカッション (17:10~18:10)

「団地からまちへ、まちから団地へ」

コーディネーター：編集者/OURS. KARIGURASHI MAGAZINE/

書籍『#カリグラシ』編集 竹内 厚 氏

パネリスト：株式会社アッドスパイス 代表取締役 岸本 千佳 氏

パネリスト：文化活動家/アーティスト/

大阪市立大学都市研究プラザ博士研究員 アサダ ワタル 氏

パネリスト：東京R不動産/『団地のはなし』編集 千葉 敬介 氏

パネリスト：UR職員

(概要)

団地の変化が、まちの変化になる？—

時代の要請に対応し役割を変化させてきた団地。団地の魅力を発信する書籍の編集者や様々な表現活動をされている方々の幅広い視点から、団地とまちとの関係性や、団地がもつ可能性や魅力についてお話し頂きます。

(4) 企画展

①概要

「コラボレーションで団地の魅力UP—企業、大学との連携—」

UR都市機構が行ってきた企業や大学とのコラボレーションの事例をパネル展示にてご紹介いたします。

②展示場所 阪急うめだホール ロビー

5 入場料・テキスト料

無料 ※シンポジウム用テキストは、当日会場で配布いたします。

6 ホームページ

(アドレス) <http://www.ur-net.go.jp/rd/houkokukai/>

ホームページより事前に参加申込みを受け付けております。

7 Facebook ページ

(アドレス) <https://www.facebook.com/urhoukokukai/>

8 CPD 認定

本シンポジウムは都市計画CPD認定を受けております。

※CPD単位は、都市計画学会以外の団体でも認定される場合があります。認定可能団体につきましては、本シンポジウムのホームページでご案内しております。また、具体的な申請方法等につきましては建設系CPD協議会のホームページまたは所属されている団体のホームページ等でご確認ください。

9 シンポジウムにご来場の学生の皆さんへ書籍「#カリグラシ」をプレゼント

(1) 概要

シンポジウムのFacebook ページを「シェア」した方で、シンポジウムに来場しアンケートをご提出いただいた学生の方に、URが監修を行った書籍「#カリグラシ」をプレゼントいたします。

(2) 対象者

当日シンポジウムにご来場の大学生・大学院生

(3) 方法

- ①シンポジウム開催日前日までに、シンポジウムのFacebook ページを「シェア」し、「シェア」画面を印刷または画像保存
- ②シンポジウムに来場し、受付時に配布される来場者アンケートに記入
- ③シンポジウム終了時に、受付へFacebook の「シェア」画面の提示と、来場者アンケートの提出を行った方に書籍をプレゼント

以上